

Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木西丁目8番7号れんが橋1F
TEL:(052)678-5310 FAX:(052)678-5330
http://clanago.com

プレイガイド
アイチケット
☎0570-00-5310

ナゴヤ劇場ジャーナル

◆発行/マネージメント・プロ ◆編集/プランニングオフィス白壁 ◆協賛/クラシック名古屋

MANAGEMENT PRO
①舞台イベントの企画制作・マネージメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネージメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行

株式会社 マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市中区葵2-11-22 アバンテージュビル305
TEL: 052-508-5095 FAX: 052-508-5097
E-mail: mane-pro@mane-pro.com
HP: http://www.mane-pro.com



大正く平成、古き良き名古屋を偲び

12月16日 芸創で花柳朱実主演「納屋橋物語」

劇団名古屋の俳優と地元の名古屋舞踊家、邦楽奏者と名古屋少年少女合唱団が総力を結集。12月16日(午前11時、午後3時) 企画は花柳朱実、脚

マシュー・ボーン「シンデレラ」



名演小劇場で
24日から公開

バレエの奇才が描く戦中のラブロマンス

英国バレエ界の奇才 マシュー・ボーンが演 出、振付した「シンデレラ」

ラ(音楽)セルゲイ・プロコフィエフがスクリーンに初登場。名古屋地区では11月24日から名演小劇場で公開される。

ボーンといえば、男性ダンサーによる「白鳥の湖」をはじめ古典バレエの名作を独創的な発想で大胆にアレンジ。これまでにローレンス・オリビエ賞を5回、トニー賞の最優秀振付賞と最優秀ミュージカル演出賞を受賞している。

新作「シンデレラ」では、舞台設定を第2次世界大戦中のロンドンにワープさせ、ヒロイン(シンデレラ)と英国空軍のパイロットとのラブロマンスを展開。折しも英国はナチス・ドイツの空襲を受け崩壊寸前に追い込まれるが...

収録は2017年、ロンドンのサドラーウェルズ劇場。主な出演はアシュリー・ショー(シンデレラ)、アンドリュー・シム(王子)。

シンデレラ役のアシュリー・ショー(中央)

地区では11月24日から名演小劇場で公開される。

ボーンといえ、男性ダンサーによる「白鳥の湖」をはじめ古典バレエの名作を独創的な発想で大胆にアレンジ。これまでにローレンス・オリビエ賞を5回、トニー賞の最優秀振付賞と最優秀ミュージカル演出賞を受賞している。

新作「シンデレラ」では、舞台設定を第2次世界大戦中のロンドンにワープさせ、ヒロイン(シンデレラ)と英国空軍のパイロットとのラブロマンスを展開。折しも英国はナチス・ドイツの空襲を受け崩壊寸前に追い込まれるが...

収録は2017年、ロンドンのサドラーウェルズ劇場。主な出演はアシュリー・ショー(シンデレラ)、アンドリュー・シム(王子)。

DanSkate
ダンスケイト
http://danskate.com
TEL 052-265-7900

納屋橋物語
お馴染みさんが渡った大正から平成

平成30年
12月16日(日)
11:00/15:00開演(両席とも30分前)

名古屋芸術創造センター
名古屋市中区正木西丁目8番7号

川に架けられた「納屋橋」を巡る街と庶民の日常を描く。物語は、橋の建造を請け負った栗田組の棟梁と、名古屋城の守り神・鯨姫との数奇な出会いから幕を開ける。

実はこの栗田組の棟梁は、舞踊家・花柳朱実の曾祖父で、「堀川堀留跡の碑」のある朝日橋(中区三の丸)のたもとには朱実の伯母・寿香の稽古場があった。今回の舞台は、2階建ての構造で、上は納屋橋、下は同稽古場を模している。

納屋橋の渡り初め(大正2年)、太平洋戦争の開戦(昭和16年)、名古屋大空襲(20年)、焼失した御園座の再建(22年)テレビ塔の

完成(29年)、伊勢湾台風(34年)挿入される数々の映像が、懐かしの昭和を回想させる。

ドラマのラストには、この作品のために創作された長唄「納屋橋」(作詞/伊豫田静弘、作曲/柁屋六秋・六春、作舞・立ち方/花柳朱実)が生演奏で初演される。

出演は花柳朱実(鯨姫)、谷川伸彦(棟梁)、西川真乃女、花柳梅奈、香花柳寿江育世、稲垣舞比ほか。演奏は柁屋六秋(長唄)、柁屋六春(同)、大久保智子(箏)、石田音人(胡弓)ほか。全自由席3,500円(当日4,000円)。TEL052(7)6000000。

名古屋にミュージカルアカデミーKAO開設 15人限定で受講者募集



講師の若村果央(女優)

モナガン(パイロット)、ミケラ・メアツア(継母)、リアム・ムーア(天使)、アラン・ヴィンセント(父親)ら。上映時間110分。2200円。TEL052(931)1701。

ミュージカル俳優を目指すあなたのために。ミュージカルから大劇場のスター公演まで、2000回を超える公演に出演してきた女優の若村果央(豊田市出身)が、名古屋で「ミュージカルアカデミーKAO」を開設。12月26-28日(全日午前10-午後4時)ミュージカル指揮者の西野淳を迎え、アートピアホールで第一期ワークショップを開催する。

若村は名古屋音楽大学在学中に劇団四季のオーディションに合格。準劇団員として研鑽を積んだが体の故障で退団。復帰後は女優業のほか演出、振付家としても実績を重ねた。本年度の名古屋市文化振興事業団企画「ミュージカル山三と阿国」の出演を切掛けに出身地・愛知での後進育成に着手。東京芸能界との太いパイプを活用し、ミュージカル俳優の育成を目指す。

第1回ワークショップ

シャンソンの扉
118 富田 宝子

フランス語でシャンソンを歌ってみたい。そんな思いを叶えてくれるのが、シャンソン教室「エコール・ド・ムジック・シャンピズ」(名古屋市中区)を主宰する富田宝子だ。

「まずフランス語の歌



歌手で講師の富田宝子

上達の秘訣は「繰り返し」「楽しむこと」

前に渡仏し、本格的にフランス語に取り組んだ。後進に教えるためには自らも学ぶ必要がある。歌はかとうえい子に、語学は東京のフランス人教師に、今もレッスンを受けている。「学ぶこと、教えることを楽しんでいきます」

シンガーとしても各地のライブハウスに進出。初登場の「エルム」(10月5日)ではシャンソンの名曲「パダン・パダン」や「時の流れに」、自身で作詞、作曲したオリジナルなどを披露し、詰め掛けた観客の喝さいを浴びた。

「エコール・ド・ムジック・シャンピズ」の問い合わせはTEL080(5)16116000。

名古屋二期会オペラ
「ちゃんちき」(作曲・團伊玖磨、台本・水木洋子、演出・岩田達彦)12月12、13日(いずれも午後6時30分)市民会館フォレストホール。キツネの親子の物語を名古屋で上演する。指揮は田中祐子。出演は奥村晃平、塚本伸彦、渡部純子、やまもとかよほか。全指定席1万1000〜5500円。TEL052(6)3805416。

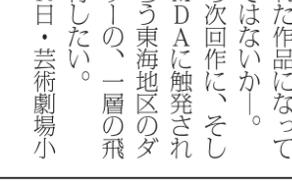
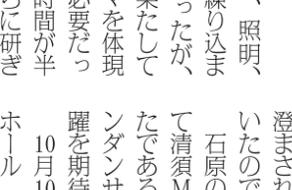
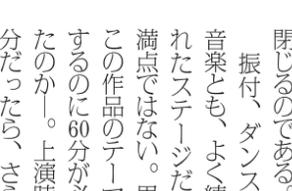
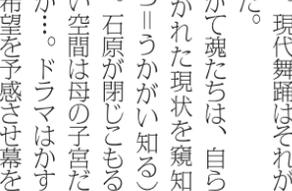
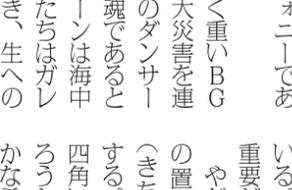
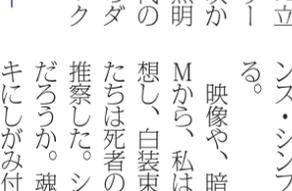
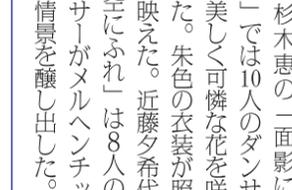
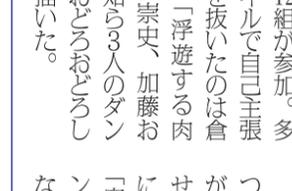
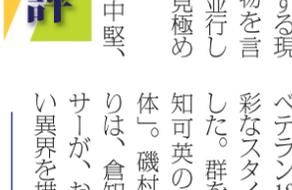
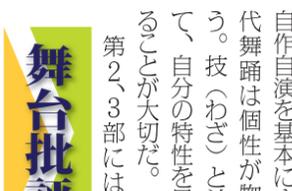
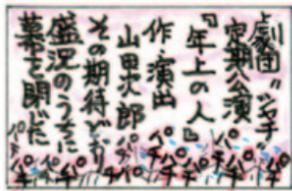
Yeriko Sasaki & The Member of NHK Symphony Orchestra No.19
佐々木仔利子&N響メンバーシリーズ No.19
生誕250周年に向けて
ベートーヴェン・ツィクルス II
2018.12/8日 15:00開演 (14:30開演)

PROGRAM
●交響曲第3番「英雄」Op.55より
●ヴァイオリンソナタ 第5番「春」Op.24
●ピアノ三重奏曲「幽霊」Op.70-1
●ヘンデル「ユーダス・マカベウス」の主題による12の愛楽曲 WoO.45

佐々木 仔利子 (Pt)
海老原 優里 (Pf)
木全 利行 (Vn)
飛澤 浩人 (Va)
加藤 史也 (Timp)
藤村 慎介 (Vc)

主催: 特定非営利活動法人 日本室内楽アカデミー ◆後援: 公財財団法人名古屋文化財団理事會 ◆協賛: 楽友会

わたなべこうじマンガ劇場



◆推奨公演◆

■コンテンポラリー・ダンス・パフォーマンス「オプト」12月15、16日(いずれも午後2時)芸術劇場小ホール。世界的コンテンポラリー・ダンス・カンパニー「ネザララド・ダンス・シアター(オランダ)」に在籍した日本人ダンサー渡辺レイ、小尻健太、湯浅永麻らによる4作品を上演する。全自由席4500円(当日5000円)円、25歳以下3000円。TEL052(971)56609。

12組が独自の世界観を描出し



杉木恵「面影に立つ」

現代舞踊協会

で、身体能力にも大差がないように感じられた。

現代舞踊協会中部支部(野々村明子支部長)が「第61回舞踊公演・第35回新人公演」を行った(9月17日・芸術創造センター)。

30周年飾った石原弘恵の大作



清洲MDA「窺知〜」(撮影・柴田晃宏)

自作自演を基本にする現代舞踊は個性が物を言う。技(わざ)と並行して、自分の特性を見極めることが大切だ。

ベテラン12組が参加。多彩なスタイルで自己主張した。群を抜いたのは倉知可英の「浮遊する肉体」。磯村崇史、加藤おりは、倉知ら3人のダンサーが、おどろおどろしい異界を描いた。

杉木恵の「面影に立つ」では10人のダンサーが美しく可憐な花を咲かせた。朱色の衣装が照明に映えた。近藤夕希代の「空にふれ」は8人のダンサーがメルヘンチックな情景を醸し出した。

清洲MDA

第20回なかの国際ダンスコンペティション(創作部門)で第1位に輝いた清洲MDAの30周年記念公演「窺知〜ワタシの在処」(構成、振付・石原弘恵)を見た。現代舞踊には、作家の発想を推理する面白さがある。意表を突かれたのはプロローグ、舞台背面に投射された格納庫(廃墟)の映像である。続いて石原ら12人のダンサーによる演舞が始まる。全9場、約60分間にわたるダ

ンス・シンフォニーである。映像や、暗く重いBGMから、私は大災害を連想し、白装束のダンサーたちは死者の魂であると推察した。シーンは海中だろうか。魂たちはガレキにしがみ付き、生への執念を燃やすが、やがてそれがむなしい努力であることを悟るのである。

ダンサーたちの動きは獣のようにしなやかで俊敏。敵しいけいこを重ねてきたことが分かる。何より全員が作者(石原)の意図を明確に理解して

閉じるのである。振付、ダンス、照明、音楽とも、よく練り込まれたステージだったが、満点ではない。果たしてこの作品のテーマを体現するのに60分が必要だったのか。上演時間が半分だったら、さらに研ぎ

澄まされた作品になっていったのではないかと。石原の次回作に、そして清洲MDAに触発されたであろう東海地区のダンサーの、一層の飛躍を期待したい。

10月10日・芸術劇場小ホール

SALE 20%~50%OFF 11/7~11/18. Enclair. ドレスショップアンクレール TEL.052-739-6155

秀逸だった神戸珠利の振付作品



神戸珠利「アイリッシュ」

Around World

バレエの若手ダンサー36人が、世界各地の民族音楽を踊る。期待外れ

もあったが、トータルすれば面白い公演だった。名古屋市文化振興事業団が主催した「Ballet Around World」(9月28、29日・アートピアホール)だ。ホール内を旅客機内に見立てたアナウンス、そして世界旅行をイメージさせるナビゲーションの映像。公演に懸ける主催者の意欲が伝わる。前半は松村一葉振付の「ジャズ」、古瀬陽子の「フォルクローレ」そして神戸珠利の「ガ

後半は古瀬の「アルゼンチン・タンゴ」、松村の「アフリカンドラム」、神戸の「アイリッシュ」。こちらは振付家にもダンサーにも気合が入った。民族の空気を醸し出すには至らなかったが、コンテンポラリーとしては秀逸だった。特にラストの神戸作品にはしびれた。

民族音楽には歴史と社会が色濃く反映されるものである。衣装や照明による演出は巧みだったが、発展途上の若いダンサーたちには、それを体現するだけの技量がなかった。

BALLET・NEXT 2019 ドン・キホーテ 全3幕 芸術監督 市川 透 2019年1月6日(日) 開場 15:30 / 開演 16:00 刈谷市総合文化センター 大ホール

カルチュ・ラタン with エルム LUNCH TIME Concert 加藤修滋 & ALBINA 会場 アート倶楽部カルチュ・ラタン 2018年11月16日(金) 11:00 フレンチブチコース 12:15 コンサート 5,500円(税、フレンチブチコース込) 先着40名

運河に浮かび上がった幽玄舞台 シネクドキズムII 「あいちトリエンナーレ2016」とフランスで上演された愛知出身の作曲家・今井智景の「シネクドキズムII」が中川運河一帯を文化地区にするための事業ARTICIOで再演された。(10月12、13日)



作家M・ボヴァーホフの手で浮かび、消える。今回は運河沿いに建つ西宮神社境内に舞台を組み、黄金にダンスハウスを構えた舞踏家・浅井信好が参加。浅井は音に込められた物語世界、面に宿る深い時間に、この地が持つ生命力を加え、幽玄な舞台上に篝火のような熱を灯した。舞台上の表現は広がりながらも説明過多にならず、シンプルなまま融合。観客の想像力を刺激した。気温の変化、風の動き、樹木のおい、

同じく補助犬の育成を支援する「Misato フレンズ」はNPO法人ではありませんでした。お詫びして訂正します。

10月号2面に掲載したソプラノ崔利先さんの学歴は、韓国祥明大学卒業、業名古屋芸術大学大学院オペラ研究科修了でした。

舞台批評

松波千津子/ルチア

カーテンコールの熱狂的な拍手と歓声。優れたステージを共有した観客の一人として、私は幸

観客酔わせた飛び切りの名唱と名演出



左から永井秀司、河原忠之、松波千津子、澤脇達晴、岩田達宗

福な余韻に浸った。ソプラノ松波千津子が、演奏活動35年の集大成として開催したりサイトラル「CHIZUKO in LUCIA」(10月7日・電気文化会館)である。

ドニゼッティの名作オペラ「ランメルモールのルチア」(抜粋)のコンサート版。出演はルチアの松波、恋人エドガルドの永井秀司、ルチアの兄エンリーコの澤脇達晴。

明が浮上させ、観客を酔わせた。後半は、狂乱から死に至るルチアを描く。松波は巧みに音量をコントロールし、楽器のよう

に正確な音程でコロラトゥーラを歌い上げた。ソリストたちの大きなムーブメント、効果的な

と、観客を楽しませるための選曲、演出をした歌手に二分されたからだ。どちらか間違いはないが、観客としては後者の方が楽しい。その代表が西川美子と夏目久子、そして指導者の関定子だ。西川はかわいらしい

「バロック音楽にもこんな面白い曲があるのか」と破顔一笑したが、東海バロックプロジェクトの室内楽シリーズ「波瀾万丈」(10月15日・HITOMIホール)。

「バロック音楽にもこんな面白い曲があるのか」と破顔一笑したが、東海バロックプロジェクトの室内楽シリーズ「波瀾万丈」(10月15日・HITOMIホール)。

の作品。手術台上に上がる不安な心境から、無事終わった安心感、快気祝いまでを表現して分りやすい。

天外で笑える。こんな作品ならバロック音楽でも退屈しないし、親近感を感ずる。このシリーズは毎回四半熟語のテストのようなタイトルが付く。今回は分りやすかったが、前回の「竜巻雲津」など、国語だけは成績優秀だった私でも四苦八苦する。次回12月7日は「聖夜賛歌」も明快。多士済々の顔ぶれで興味津々で出かけるよ。



ソプラノ 荻和子

サービス精神、発揮したのは...

リラの会コンサート

傑出したのはヴェルディの「椿姫」花から花へ」を歌った荻和子だ。立ち姿、音程、音量いずれも優れ、歌にはドラマがあった。後半の日本歌曲を聴いて、「サービス精神」について考えた。自身の勉強のための選曲をした歌手

二期会カンツォーネ

イタリアの大衆音楽カンツォーネのコンサート名古屋二期会が開いた(9月15日・電気文化会館)。「ケ・サラ」オーソ

ソリストに欠けた工夫と遊び心

レ・ミオ「帰れソレント」など、われわれは意外に多くのカンツォーネを知っている。アリアやリートのカンツォーネは敷居が高いが、カンツォーネなら気軽に楽しめる。期待したのだが...

私たちが「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します

青山 皆江 越智久美子 つつみあつき 秋田巴喜子 小野由加利 手塚 淑子 阿久津紀子 加藤 静子 戸田美江子 浅井 孝子 金澤 志保 中川 幸作 荒川 洋子 蟹江 尾八 仲条 優理 出田 光代 黒沢 優子 夏目 久子 伊藤 敬 小池 真琴 名鶴ひとみ 伊藤 直樹 工藤寿々々 西川 長秀 稲垣 舞比 榊原菜生末 野々山保治 井上 初子 佐藤 典子 野村 祐子 齋 干龍 佐藤美智子 服部 節子 植村麻衣子 澤脇 達晴 服部はる江 内田寿千代 島田 倫子 花柳 馨優 内田 寿典 清水 房子 林 雅仁 内田 寿晴 白樺 八青 瀧本晴都子 内田 寿哉 瑞 澄依 松本 道子 内田の翠 さとうしほ 見波 紀子 内田の千鶴 鈴木久美子 みやちとこ 内田の美 鈴木 文雄 宮西 圭子 内田の美知 角田真優美 山口 雅子 大寺 資一 高橋 肇 よしみゆこ 岡田 一男 武市 孝三 渡部 千枝 岡田 純奈 竹元まき子 ほか 岡崎 保彦 田淵友佳理 小倉ひろこ 玉田 弘子

圧巻だった常磐津綱鵬の名調子

木村繁演出「竜潭譚」

山中で迷子になった男児が体験する摩訶不思議な物語。泉鏡花の怪奇小説「竜潭譚」(りゅうたんたん)を、常磐津と人形で演じる異色のパフォーマンスが行われた(10月8日・米能楽堂)。

死別した男児の幻想とも理解できる。時代や社会により、さまざまに解釈、劇化できる秀作である。

今作がどう形を委ね発展するのか、木村の次回作の演出手腕に期待したい。

身支度を整え、会社へ向かい、通勤途中で同じさかさまの少女と出会う。劇作家・佐々木透の小説を、登井が舞台用に構成。原作者、演出家ともベ

間が不確かに感じられるたび知っているはずの劇場の壁や天井、舞台の床にまで目を凝らしてしまふ不思議な時間。この二人は全国の劇場で演じてはしくなる。(9月15日・ナビロフト) (竹)

出演した14人のシンガーの半数は、カンツォーネをクラシック歌曲のように、それを直立不動で熱唱した。美術や照明にも全く工夫がない。もっと遊び心があってもいいのではないか。

解消させてくれたのが、加藤智と、このコンサートを監修した二神 二郎、2人の男性、ベテラン歌手である。抑えの利いた歌唱、抜群の歌心を発揮して聴衆を酔わせた。高音を張り上げるだけがカンツォーネではないのだ。

「バロック音楽にもこんな面白い曲があるのか」と破顔一笑したが、東海バロックプロジェクトの室内楽シリーズ「波瀾万丈」(10月15日・HITOMIホール)。

「ナゴヤ劇場ジャーナル」では発行をご支援いただけるサポート会員を募集しています。会費は年間6480円(税込)です。会員には小紙を毎月お届けするほか、紙面にお名前を掲載(希望者のみ)。

人形浄瑠璃と言えは文楽(人形と義太夫)。人形が命を得たように振る舞う古典芸能だが、今作は綱鵬の三味線弾き語り、圧倒的な存在感を示し、人形の力が薄くなってしまった。綱鵬の明朗な口舌に絶妙の間

「竜潭譚」は「神隠し」を題材にした物語で、二十と千尋の神隠し」のヒントになった作品とも言われている。幼くして母と

オリジナル作品の創作・上演で地域の演劇シーン活性化を目指す「NAVY LONT」アリエシヨ

今企画「第一弾」さかさま。登井葵を演出に迎え、小熊ヒデジ、江上定子が演じたのは、世界がさかさまになってしまった男の物語。それでも男は

異常な空間の実現は、役者の能力をフルに引き出すことでチャレンジ。小熊は繊細な動きと声の演技で、ありえない世界を行く男を舞台上に存在させ続けた。わずかな現実感からも浮き上がっていき、ような江上も印象的。設定を考察したくなる不条理劇が、感覚で受け止められる物語になっているのは大したもの。最後には空間も時間も、世界の理も揺らいだ。

そんな私のイライラを

「バロック音楽にもこんな面白い曲があるのか」と破顔一笑したが、東海バロックプロジェクトの室内楽シリーズ「波瀾万丈」(10月15日・HITOMIホール)。

「バロック音楽にもこんな面白い曲があるのか」と破顔一笑したが、東海バロックプロジェクトの室内楽シリーズ「波瀾万丈」(10月15日・HITOMIホール)。

「バロック音楽にもこんな面白い曲があるのか」と破顔一笑したが、東海バロックプロジェクトの室内楽シリーズ「波瀾万丈」(10月15日・HITOMIホール)。



左から古家暖華、常磐津綱鵬、LONT



小熊ヒデジ(手前)、江上定子

Advertisement for 'Menicon presents 戦国オペラ 西川右近 本能寺が燃える' with cast members and performance details.

Advertisement for '波瀾万丈?! 愉快的なバロック音楽' with details about the concert and ticket information.

温かな音色に音楽への想い託し

ピアノ／鈴木久美子

鈴木久美子が2回目のピアノリサイタル(9月22日)電気文化会館を開いた。昨年の初リサイタルより期待して出かけた。ベートーヴェン「ピアノソナタ第14番・月光」は、冒頭のテーマからゆっくりとしたテンポで進め、いい雰囲気だった。

メインはシューマン。子供の情景は、聴きどころの「トロイメライ」など優しい音で夢見る心地。クララの「ロベルト・シューマン」の主題による変奏曲「ともに温かい音色で、彼女の持ち味が



鈴木久美子



渡部純子・初鹿野剛



稲熊佐江子



出ていた。

後半のシューマン「謝肉祭」は「ピアノ」パピヨンなど、祭りのさまざまな人や物を表現した若きシューマンの才能に満ちた大作。その多彩な音をよく導き出したが、より幅と奥行きがあれば申し分なかった。

二者それぞれが持ち味発揮し

音ペン受賞者 音環VII

名古屋音楽ペンクラブ賞の受賞者による「音環VII」(9月27日・電気文化会館)。今回も充実した内容だった。

最初のソプラノ渡部純子は、留学したアメリカの作品を集めた。印象的だったのはバインスタイン「シルエット」。おなじみ「シェナンド」は感情たっぷりな歌い上げ

た。中でも「深い河」など黒人霊歌が良かった。続くバリトン初鹿野剛は、思い出深いと言う中田喜直の作品「夏の思い出」で聴衆をつかみ、歌曲集「木の匙(さじ)」から3曲、最後の「海四章」まで、深みのあるバリトンを響かせた。

二人は同じ名古屋二期会のオペラに出演しており、デュオで「木の匙」の2曲をアンコールとして披露した。

最後のシューマン「幻想曲」は、きちんとまとまり、個性の爆発はなかった。曲によって思うように演奏スタイルの使い分けができる実力の持ち主で、注目値する。

個人的、音楽もヘアスタイルも

ピアノ／稲熊佐江子

ピアノ／稲熊佐江子のリサイタル(10月13日・電気文化会館)は個性が光った。

リサイタルは5年ぶり。最初のベートーヴェン「ピアノソナタ第8番・悲愴」から個性の爆発はなかった。

「波の上を渡るパオラの聖」

「メフィストワルツ」に合わせたのか?悪魔のよう

「波の上を渡るパオラの聖」

ハンジャマン・アライ
木嶋真優 & 上原彩子
デュオ・リサイタル
12/5日
電気文化会館
チケット ¥5,000

0歳からのコンサート

クラシック名古屋 & マネージメント・プロ共催事業

ワディム・ソロマハを迎えて

「くるみ割り人形」

ズーラシアン

フィルハーモニー管弦楽団

～クリスマスの贈り物～

2018年
12月25日(火) 15:00開演 (14:00開場)

日本特殊陶業市民会館 フォレストホール

1・2階席 5,000円 3階席 3,500円 4階席 2,000円 (全席指定・税込)

0歳児から入場可能。3歳以上の方はチケットが必要。大人一人につき3歳未満一人様上無料。
※車椅子席もご希望の方はあらかじめクラシック名古屋にお問い合わせください。

プログラム
「くるみ割り人形」より
赤鼻のトナカイ
星に願いを ほか

パレエ
ワディム・ソロマハ & ヴラジミール・チュプリン
ディミトリ・マラト
イゴール・ボロシン ヴィクトル・ガジェフ

演奏
ズーラシアンフィルハーモニー管弦楽団

主催・お問合せ:クラシック名古屋 052-678-5310 マネージメント・プロ 052-508-5095
協力:経智インターナショナルパレエ 後援:名古屋市、名古屋市教育委員会

Shigeru Kishida
Symphony No. 2

World Premiere Performance in Kyoto
Kyoto Symphony Orchestra
Junichi Hirokami

初演 岸田繁
交響曲第二番

2018年12月22日(日) 18:00開演
京都コンサートホール

2018年12月4日(日) 19:00開演
愛知県芸術劇場コンサートホール

2019年3月30日(土) 18:00開演
東京オペラシティコンサートホール

佐渡裕指揮 シエラ・ウィンド・オーケストラ演奏会 2018

J.S.バッハ 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ
シャコンヌ
バンスタイン シンフォニック・ダンス
ディヴェルティメント
音楽のおもちゃ箱
クリスマススペシャル!

2018年12月14日(日)
18:45開演 (18:00開場)

愛知県芸術劇場 コンサートホール

チケット料金(全席指定・税込) 前 ¥9,500 中 ¥8,000 後 ¥6,500 最 ¥5,000 最前 ¥2,000

ベートーヴェン・ツィクルス II

2018年12月8日(土)
17:30開演 18:00開場

電気文化会館

チケット ¥3,000

LaDiva

2018年12月15日(土)
17:30開演 18:00開場

電気文化会館

チケット ¥3,000

三日月孝
サクソフォーンリサイタル

2018年12月19日(日)
19:00開演 18:30開場

電気文化会館

チケット ¥3,000

中川朋子
ピアノリサイタル

2018年12月21日(金)
19:00開演 (18:30開場)

電気文化会館

チケット ¥3,500

奏でる人を聴きたい人へ 人と音を結ぶ

クラシック名古屋

052-678-5310

金山総合駅 南口より徒歩3分

名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル1F

クラシックコンサートのチケットは

アイ・チケット

0570-00-5310
(10:00~17:00 ※日祝休み)

アイ・チケット web 検索

※お好きな時間にお好きな席を選んでクリック!!
カード決済・コンビニでのお支払いができます。

クラシック名古屋のプレイガイド
「アイ・チケット」

多くのクラシックコンサートのチケット販売から、ホール、座席のことまでオペレーターが丁寧に対応いたします。

ホームページからもチケット購入ができる、便利なクラシック専門のプレイガイドです。